

尾道市立小・中学校の適正配置及び通学区域について (答申) 平成14年11月 尾道市立学校通学区域審議会

3 望ましい小学校・中学校の適正規模に関すること

(1) 適正な学級人数について

学級人数は、20～30人程度が最も望ましく、適正である。

(2) 学年の適正な学級数について

学年の適正な学級数は、複数学級である。

各学年複数学級も学級内人数もすでにライン割れ



尾道市公共施設等総合管理計画

(2) 管理に関する基本方針

中分類	基本方針
義務教育系施設	<p>将来的な児童、生徒数を見据えて、学校施設の再編が進められています。継続して利用する施設については、耐震補強工事や計画的な予防保全により、施設の長寿命化を図り、トータルコストの削減を行います。</p> <p>地域に開かれた学校施設の推進のため、屋内運動場やグラウンドを開放するほか、余裕教室を放課後児童クラブに活用するなど、将来的な活用のあり方を検討します。</p> <p>学校給食共同調理場については、施設及び設備の更新時期を想定し、将来的な需要を視野に入れた施設のあり方を検討します。</p>
その他教育施設	<p>尾道市立大学は、中期計画等に基づき、計画的な予防保全や、長寿命化を図りながら、維持更新経費の縮減と平準化を図り、安定した経営と魅力あるキャンパス環境の整備を両立していきます。</p>

土砂災害警戒区域とは

- レッドゾーンは、土木対策が解除の要件として求められている。
- イエローゾーンは地形そのものを指定要件としており、イエローの解除には地形変更が必要となるが、国、県はイエローの解除のための地形変更を求めているのではなく、イエロー地域の使用に際しては、避難計画や避難訓練など、人命を守るソフト面の対策の充実を行うことを求めているものである。

3階に体育館、屋上にプール でいいのでしょうか

- ◆ 小中学校の体育館は、地域防災計画における指定避難所に位置付けられることが多い・・・
- ◆ 避難所として使われるときには・・・
- ◆ 学校のプールは年間20日も使われない・・・
- ◆ 費用対効果から最近は多くの学校がプールを作らず借り上げている
- ◆ 階上にプールをつくると、荷重、防水など、建設やメンテナンスに費用が必要
- ◆ さらに、階下が体育館で柱のない空間が必要だと壁面だけで重量を支えるために構造の強化が必要

80㎡の教室 余る教室

- ◆ こどもはなぜ狭い空間を好むのか。広すぎる空間はこどもを不安にするのでは・・・
- ◆ 完成後すぐに発生する余剰教室は何に使うのでしょうか。教育長は特別支援学級に転用すると説明していますが、児童数全体が減って特別支援学級対象児童だけが増えることがあるのでしょうか。
- ◆ 転用を前提とした設計になっているのでしょうか。